

連携

第67号

病院の理念

わたしたちは、患者さまを第一に考え、いのちを大切にす最善の医療を行い、地域に貢献します

基本方針

わたしたちは、患者さまのことを考え、いのちを大切にします

1. 市民から信頼される、安全な医療を行います
2. 良質な医療を行うために、つねに新しい知識と技術を身につけるように努めます
3. 地域のニーズに合った医療を提供することで、地域に貢献できる病院をめざします
4. 地域の医療の中心として、ほかの医療機関との連携に努めます



呼吸器内科紹介

呼吸器内科部長 宇佐美 修

これまで宮城県北の呼吸器診療は、大崎市民病院と気仙沼市立病院に加えて、宮城県立循環器呼吸器病センターが中核を担っておりました。しかし、平成31年度の宮城県立循環器呼吸器病センターの閉院が決定し、入院・通院されております呼吸器疾患の患者様の診療継続先の確保が問題になっておりました。そこで当院では受入先の一つとして、平成30年度後半より呼吸器内科の体制を補強することになり、4月より常勤医として赴任して参りました。伊藤俊輔医師と共に幅広い肺疾患の診療を行い、山谷教授が引き続き外来診療にあたられている他、東北大学から非常勤の先生が応援にきていただいております。

当科としては、宮城県立循環器呼吸器病センターからの患者様を受け入れること、また地域呼吸器診療の充実を図るため、地域の先生方から呼吸器疾患関連精査加療の御希望、高次医療機関での治療が一段落した場合の後方支援施設としての役割を果たしたく存じます。外来診療は毎週水・木・金曜日に対応しています。診療内容としては進行期の肺癌、間質性肺炎、慢性閉塞性肺疾患、非結核性抗酸菌症、胸部異常陰影など一般的な呼吸器疾患を診療しています。また肺癌化学治療に関しては、二次治療以降の維持治療や緩和ケアでしたら、お引き受けできるかと存じます。終末期を自宅近くの医療機関で過ごしたいという患者様の受け入れ、在宅酸素療法導入、肺炎球菌ワクチン接種なども行なっております。ご要望の際にはまず当院地域医療連携室にご一報ください。

外来診療体制（呼吸器内科）

＜平成30年8月1日＞

	月	火	水	木	金
初診			宇佐美 修		伊藤 俊輔
再診		(第2週) 大学医師	伊藤 俊輔	山谷 睦雄 大学医師	宇佐美 修



結核病棟開設に向けて

ご存知の通り、結核患者の減少に伴い、宮城県の医療施設でも結核病棟の閉鎖が相次いでおります。宮城県立循環器呼吸器病センターの結核専用陰圧結核病床も閉院予定となりました。患者数が減少したとはいえ、一度結核患者が発生すると、社会的疫学的インパクトは大きく、また結核診療に携わったことのある医療関係者が少ないため対応に困ることも少なくありません。当院では

平成31年4月から専用の陰圧結核病棟を新設し、宮城県立循環器呼吸器病センター入院中の結核患者様を引き受けるだけでなく、他院で発生した結核患者様の転院診療を行います。結核患者様をご紹介いただく際には、厳密に排菌陽性の結核患者様のみを受け入れるため、以下の点に御留意ください。



結核医療提供施設増築工事進捗状況
(H30/8/2撮影)

1) 喀痰抗酸菌塗抹陽性であること

塗抹陽性であることをもって、排菌陽性とし、周囲への感染性があると見做され、隔離対象となります。培養陽性であっても、塗抹陰性であれば、隔離の必要条件は満たしませんので、ご注意ください。胃液、BAL 塗抹陽性の場合には、必ずしも隔離の対象とはなりません。まずは保健所ならびに当院へ御連絡ください。

2) 検体結核菌遺伝子検査陽性であること

ご存知の通り、抗酸菌には、結核性と非結核性があります。抗酸菌塗抹陽性であっても非結核性の場合、隔離は不要です。両者の鑑別には喀痰の遺伝子検査の結果が必要ですので、結果が得られるまでお待ちください。

3) 隔離解除後の退院先が確保されていること

当院結核病棟へ入院した患者様は、結核治療を開始後、おそらく平均2ヶ月ほどで塗抹陰性化し、感染性がなくなると見做され隔離解除となります。解除後は、それぞれの施設で内服治療を継続することとなります。ただし、感染性がないとはいえ、どうしても結核治療中の患者様は受け入れがたいという心理が働き、退院困難患者が発生することになります。そのような事態を避けるため、当院結核病棟紹介入院の際には、あらかじめ退院後の療養先を決定してからご紹介いただくと幸いです。

4) IGRA 陽性のみは隔離の対象となりません

接触者検診で IGRA (T-SPOT やクオンティフェロン) 陽性となりましても排菌陽性ならびに結核菌遺伝子検査陽性を満たさなければ隔離とはなりません。ただし、潜在性結核感染者として治療することになるかもしれません。

これから多くの先生方にご助力をお願いすることになると存じます。どうぞご指導の程、よろしくお願い申し上げます。



結核病棟完成予想図

第24回 連携のつどい “よらいん”



平成30年7月5日(木)第24回連携のつどい“よらいん”を開催しました。今回の連携のつどい“よらいん”は当院の呼吸器内科部長 宇佐美医師を講師に迎え「正しく学ぼう！結核の感染管理」をテーマに研修しました。院内外より78名の参加があり、参加者より「結核について全く知識がなかったので勉強になった」「結核患者さんの退院後の対応について理解できた」などのご意見を頂きました。結核病棟開設にあたり、来年度より県内からの

結核患者の入退院による、市内施設や自宅への退院調整も考えられます。

今回の研修会は介護職員の方々にとって結核患者さんの理解の第一歩となったことから、よらいんの目的を果たすことができたと考えます。医療従事者にとっては物足りなさの残る内容だったこともあり、今後は院外の医療従事者向けの結核管理講演会を検討していきたいと考えます。



学会・研修会・論文発表

☆Journal of Infectious Diseases & Preventive Medicine Volume6 -April 13,2018

Asthma Exacerbation Caused by Bacterial Infection in Two Elderly Patients

Mutsuo Yamaya,Hitomi Yoshigoe,Koji Murakami,Shoichi Nakayama and Masakazu Ichinose

☆第115回東北整形災害外科学会 弘前市 藤盛理子先生 H30.4.26~28

Can injury of the anterolateral complex be detected using 3D MRI in patients with acute ACL injury?

Department of Orthopaedic Surgery, Kesenuma City Hospital
Satoko Fujimori

☆第61回 日本糖尿病学会年次学術集会 H30.5.24 東京国際フォーラム

I-P-320 当院におけるメトホルミン投与の実状と併用薬の検討

栗原市立栗原中央病院内科 木田真美,吉越仁美,佐藤修一,小泉勝

☆第61回 日本糖尿病学会年次学術集会 H30.5.25 JPTタワー

II-18-4 高齢糖尿病患者におけるGAD抗体測定の臨床的意義

栗原市立栗原中央病院内科 吉越仁美,小泉勝,木田真美,佐藤修一



☆欧州放射線学会議, ウィーン、オーストリア

European Congress of Radiology (ECR), February 28 - March 4, 2018, in Vienna, Austria

Slow flow visualization using spin labeling magnetic resonance imaging aimed at depicting pancreatic juice flow

H. Hoshi^{1,2}, R. Yoshida^{1,3}, R. Sugita¹, Y. Machida²

星 英樹、吉田 礼、杉田礼児、町田 好男

1. 仙台オープン病院 2. 東北大学大学院医学系研究科 3. 栗原市立栗原中央病院

☆第74回日本放射線技術学会 総合学術大会 H30.4.12~15 パシフィコ横浜(神奈川県横浜市)

講演: 専門部会講座(撮影)専門編

「MR Pulse Sequences to Clinical Applications」各種パルスシーケンスの理解と臨床応用

栗原市立栗原中央病院 吉田 礼

発表: Evaluation of Image Characteristics Using MTF in T2-weighted Variable Refocusing Flip Angle 3D TSE

吉田 礼^{1,2}, 曾根 理³, 荒木 隆博⁴, 町田 好男²

栗原市立栗原中央病院 2)東北大学大学院医学系研究科 3)仙台厚生病院 4)山形県立中央病院

発表(共同研究者): Fundamental Study of Signal Characteristics in Slow Flow Visualization Using Time-SLIP Technique Assuming Pancreatic Juice Flow

星 英樹^{1,2}, 吉田 礼^{2,3}, 杉田礼児¹ 町田 好男²

1)仙台オープン病院 2)東北大学大学院医学系研究科 3)栗原市立栗原中央病院.

-栗原中央病院が紹介されました-



当院の糖尿病療養チームが、情報誌 ARBRE に紹介されました。

高齢化の進む地域の糖尿病患者をチーム医療で支えている活動が掲載されています。



※糖尿病治療・予防に関わる医療機関のための情報誌 ARBRE VOL.37



栗原市立栗原中央病院

市民ふれあい祭り 2018

～地域と密着した病院を目指して～

日時：平成30年9月29日（土）10：00～14：00

場所：栗原市立栗原中央病院 1階フロア

参加申込不要・入場無料

当院では、患者様やご家族様、地域の方々にも少しでも当院を身近に感じ知っていただきたいという思いから『栗原中央病院市民ふれあい祭り 2018』を開催します。

メインステージでは、院内保育所くりくり保育園の子供たちの元気な遊戯や、呼吸器内科医師による講演などを予定しております。外来エリアでは、医師による生活習慣病相談、薬剤師の化学教室や手術室見学など、様々な体験コーナーを設置します。また屋外では、消防本部の協力による消防車・救急車の展示や体験試乗、築館高校ボランティア部による縁日コーナーなど、家族連れで楽しめるコーナーを準備しております。

たくさんの市民の皆様のご来場をお待ちしております。



- 編集後記 -

「熱中症に厳重な注意が必要です。」

今年の夏は毎日のように、この言葉を耳にします。異常な暑さに体調管理がとても難しいですが、こまめな水分補給と早寝・早起き・朝ごはんを乗り切りましょう！！



栗原市立栗原中央病院

〒987-2205 宮城県栗原市築館宮野中央三丁目1番地1

栗原市立栗原中央病院（代表）TEL：0228-21-5330 FAX：0228-21-5350

<http://www.kurihara-central-hp.jp/>

地域医療連携室（直通）TEL：0228-21-5335 FAX：0228-21-5336